

新 春 雑 感

農薬工業会会長 吉田 豊

あけましておめでとうございます。

光栄ある年頭の辞をご指名いただきましたので、なにはともあれ、まずは正月用語でご挨拶申し上げます。

ご承知の通り私どもは昨年10月より新年度を迎え、心を新たにして昭和52農薬年度に対応しております。昨年は石油ショックで蒙った後遺症の2年目で、なんとしてもこれを払いのけようと会員一同期待もし、それ相応の努力を積んだことでありますが、残念ながらトンネルを抜け出し得ないまゝ新年度を迎えることゝなりました。

私ども会員会社だけの数字ですが、50年度の生産実績は64万7千トンに対し、51年度は59万6千トンで、前年比92%までに自戒した結果となったものゝ、期末在庫は前年と略同量と推定されております。なかでも除草剤についてはこの傾向が顕著に現われております。

価格についても本年度は農業サイドの事情に押し切られ、私どもとしては滞足できない線で

決定され、忍従の状態を続けなければなりません。また需要の見通しについては国内では著しく減少することはないとしても、高い需要増は期待できないというのが大方の見方であります。

しかしながら、このような背景、事情にありながらも、世評を賑やかにしてきた安全性の問題も大筋は解決され、私ども胸を張って生産にいそしむことができるようになっております。また農業生産資材としての農薬の地位と使命は国際的にも国内的にもいよいよ定着度を固めたものと確信しております。

最近、私ども企業の新農薬開発意欲についてご懸念の声をときたま耳にしておりますが、このことは私どもにとっては死活の問題であり、難条件多々ありますなかではあります、大いに意を燃やしておりますので、皆様方の一層のご指導をお願いいたします。

新春にふさわしくない泣きごとめいたことも申し述べましたが、この機会に心を新たに、一陽来復を念願してご挨拶いたします。

新 年 の 心 構 え

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 戸荻義次

昨年夏の夏作期間は全国的に低温で、馬鈴薯とてん菜以外の農作物は不作に終り、特に寒冷地

の稲作は凶作とさえ伝えられている。その原因について銘柄品種への偏向や稚苗の機械移植などがとりあげられている。こゝ数年、好天が続いたので適地以外への品種の進出や育苗に対する肝要な管理を怠った面がかなりあったのは事実であろう。

異常気象といわれる全国的な低温襲来は、いわば自然の大規模実験とみるべきもので、かゝる環境下での作物生育の過程を調査して研究の対象に、また将来の処置に対する資料とすべきである。機械化栽培に伴う稚苗・中苗の育苗基準について、いち早く農林省農産課は専門家を集めて決定したと聞くと、賞讃されてよい処置である。

ところで気になるのは、低温下における除草剤の作用である。水稻不作の原因を品種選択や稚苗管理に求める聲が大きく、除草剤については批判はないが、除草剤が多少とも稲の生育を遅らせ、それが低温と結んで出穂遅延に関与することはなかったか、充分に見究めておきたい点である。殺菌・殺虫剤農薬の異常気象下における葉害については、平根氏の報告があるが、除草剤に関しても総括的な検討が望ましい。

除草剤の効果判定にしたがって登録に当たっては、全国を数個の生態区に分け、少なくとも2カ所、2カ年の試験結果に基づくという慎重な処置をとっている。低温の影響もこのうちに含まれると思うが、昨年のような異常気象は

稀であるから、念入りに調べ、誤りなき除草体系の樹立に一段と努めたい。

わが国の水稻除草体系は、世界に冠たるものとして各国の一目おくところであるが、畑作除草は水稻の影にかくれて振わない。世界的にみれば、畑作の重要性は稲作に劣らない。先般、世界の次期食糧基地として期待されるブラジルの農業を視察した。熱帯から温帯を含む広大な同国の農業は多様であるが、畑作を主体とすることに変わりはない。広大な農用地をもつと共に工業化も進んでいるので、農業労働力の不足を増すことは明らかで、農作業の省力化のために、除草剤利用の方向を強めるのは必至である。玉蜀黍 1,500, 大豆 700, 稲 500, 中陸稲 400, 小麦 350, 豆 300, 甘蔗 250, コーヒー 200, 綿 150 万ha に対し、1975 年の除草剤使用量は 23,600 トン、237 億円、うち輸入が 18,682 トンを占めている。この使用割合は、大豆 29%, 稲 23%, 飼料作物 17%, 甘蔗 15% と畑作が圧倒的に大きい。

かゝる点に注目して日本を含めて世界の農薬会社の進出めざましく、競争の火花を散らしている。この場合も日本は稲作除草に信頼があるが、畑作では劣勢であるらしい。それは本国における畑作除草技術の水準によるものと思われる。日本が世界の信頼と尊敬を得るためにも、世界ならびに日本の食糧安定の上にも、わが国畑作除草の水準を高めたい。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A 4 版 47 ページ
定 価 2,000 円 (送料別)

東京都港区芝愛宕町 1-3 全国農村教育教会内
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京 (03) 436-3388 番